

宗教法人 大円山智相院宝鏡寺付設
ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館だより

〒979-0605 福島県双葉郡楡葉町大字大谷字西代 58-4 宝鏡寺境内 館長:安斎育郎
館長補佐:早川千枝子、副館長:桂川秀嗣、事務局長:丹治杉江、会計:片山一美、顧問:伊東達也
参観などの相談は事務局長の丹治杉江にどうぞ(下記)
電話:090-7797-4673、メール:ran1953@sea.plala.or.jp

No.4
2024年
3月11日
発行

「非戦の人ジャネット・ランキン展」開催



日本ではあまり知られていませんが、ジャネット・ランキンはアメリカ連邦議会史上初の女性議員で、しかも、第一次・第二次両大戦に反対票を投じた唯一の連邦議会議員です。伝言館は一月一五日(三月一〇日、未来館でジャネットの特別展を開催しました。

故・早川篤雄住職逝去一周年
「和尚を偲び、伝言館を語る会」開かる
二〇二三年二月九日、於・未来館

早川篤雄宝鏡寺第三〇世住職が逝去されて一年を迎えた二〇二三年二月九日、未来館において「和尚を偲び、伝言館を語る会」が開かれ、いわき・郡山・長野・東京・京都などから和尚と縁を結んだ人々がつどいました。つどいは丹治杉江事務局長の司会のもとで進められ、まず、和尚の「未来への伝言」の映像を鑑賞しました。そして、全員が和尚への想いや近況を報告するなど、熱い語り合いの場になりました。早川光明・宝鏡寺住職も忙しい中を駆けつけてご挨拶を頂きました。
宝鏡寺境内にある伝言館の存続には、ご門徒、ご住職および早川和尚のご遺族の理解が不可欠であり、今後とも関係者一同、心を通じ合いながら発展のために努力したいと思えます。

2024年の特別展の予定

- 1月15日～3月10日 ジャネット・ランキン展
- 3月11日～5月31日 原発事故はなぜ起きたのか
- 6月11日～8月5日 パッチワーク・キルト展
- 8月6日～9月30日 核兵器禁止条約の現状と課題
- 10月1日～12月7日 世界の「平和の遺跡」展
- 12月8日～1月15日 宝鏡寺の太平洋戦争展

伝言館は今後も非核・平和に関する特別展を随時開催したいと考えていますので、ご希望をお寄せ下さい。

2025年には、女性初のノーベル平和賞受賞者ベルタ・フォン・ズットナー展や、大日本帝国時代に日本の治安維持法の犠牲になった韓国の国民的詩人・尹東柱(ユンドンジュ)展などを予定しています。



挨拶する早川千枝子館長補佐。左は丹治杉江事務局長。

中国の若者が来館—「伝言館で多くを学んだ」と感想



中国の社会起業家・教育者であるホンシャン・ファンさんに率いられて、2024年2月2日、中国の青年たち7人が伝言館を訪れました。

安斎館長が43枚のパワーポイント・スライドを用いて小一時間英語で説明した後、青年たちと活発な質疑応答を行ないました。その後熱心に伝言館を見学(左写真)、小児甲状腺がんの発症やトリチウム水の海洋放出などを含めて多くの質問を発しました。

「伝言館友の会」にご入会を

伝言館は、宗教法人宝鏡寺に抱かれつつも、相対的自立性を保って運営されなければなりません。

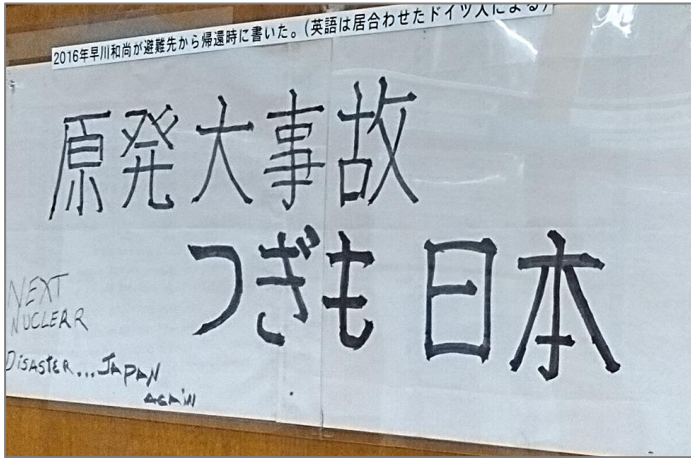
故・早川篤雄和尚の遺志を受け継ぎ、未永く非核のメッセージを社会に発信して行くためには、全国の人々の理解と協力が不可欠です。

そこで「伝言館友の会」を立ち上げ、年会費一〇〇〇円で伝言館の財政を支え、活動への助言や協力を頂くことにしました。

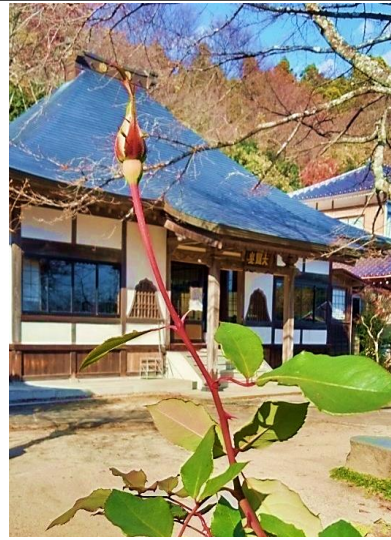
お問い合わせは丹治杉江事務局長(090-7797-4673)まで。

伝言館の「ことば」

「原発大事故つぎも日本」、早川和尚の懸念 安齋育郎(伝言館館長)



「縁起でもない」と感じる人も少なくないかもしれませんが、早川篤雄和尚は、1973年からの原発への取り組みの中で感じていた行政や電力企業への不信感の中で、「このままでは原発大事故は次も日本で起きかねない」と感じていました。伝言館の1階展示室に掲出されている上の和尚直筆のメッセージは、私たちに、「原発の大事故は福島原発事故で終わり」などと考えるはならないことを警告しています。左下には居合わせたドイツ人が翻訳した“Nuclear Disaster...Japan Again”と書いてあります。



今年は一九五四年三月一日のビキニ水爆被災事件から七〇年目です。犠牲になった第五福竜丸の無縁長・久保山愛吉さんが妻・すずさんとともに焼津の自宅で育んでいた「愛吉・すずのバラ」は、宝鏡寺境内で春を迎えています。



今年辰年。伝言館入り口の「吠えよ、ドラゴン」の図



安齋館長から
早川和尚への絵手紙を展示
伝言館の1階展示室に安齋館長が早川和尚没後1年目に書いた和尚の似顔絵付きの絵手紙が展示されました。和尚の無念と伝言館発展への決意が書かれています。
手紙は早川千枝子夫人の希望で額装され、展示されました。

緊急展示: 能登半島地震と志賀原発

小回りのきく臨機応変の企画展開は伝言館の長所です

能登半島地震の志賀原発への影響
震央分布

能登半島地震による揺れ

- 防災科学技術研究所によると、石川県志賀町の観測点で、東日本大震災の最大震度(2.93)に匹敵する揺れを観測。観測地点は、六次町と計7地点で1,000ガル以上だった。
- 同研究所の青井員・地震津波火山ネットワークセンターは、「これほど広い範囲で1,000ガル以上の加速度が観測される現象は非常に珍しい」と説明。
- 一方、北陸電力は、志賀原発1号機原子炉建屋地下2階で309.3万ガルだったと報告。「1,000ガルの基準地震動から見れば異常」という印象を強調した。

原発構内にも35cmの段差

- 【1月5日発表】1号機の原子炉建屋付設や海側エリアなどで最大35センチの段差やコンクリートの落下があった。
- 事故発生後に確認した段差があったり電線が断れたりした。消防や救急の活動に支障が生じる深刻な事故。

志賀原発の設備稼働、想定96キロ超える再稼働審査で見直しも(朝日新聞デジタル)
2024年1月10日

- 志賀原発2号機の再稼働に向け審査では、地震時の設備がどの程度まで揺れるかを想定していたが、大きく変わってきた。
- 12万~13万年前頃に発生したことが実証された。審査を急がせられる。

能登半島地震による揺れ

- 防災科学技術研究所によると、石川県志賀町の観測点で、東日本大震災の最大震度(2.93)に匹敵する揺れを観測。観測地点は、六次町と計7地点で1,000ガル以上だった。
- 同研究所の青井員・地震津波火山ネットワークセンターは、「これほど広い範囲で1,000ガル以上の加速度が観測される現象は非常に珍しい」と説明。
- 一方、北陸電力は、志賀原発1号機原子炉建屋地下2階で309.3万ガルだったと報告。「1,000ガルの基準地震動から見れば異常」という印象を強調した。

放射能モニタリング・ポストの異常

- 本誌電力の当初発表・モニタリング・ポストでは異常な放射能値は観測されていない。
- 【1月4日になって訂正】異常な北15キロ以上離れたところにモニタリング・ポスト14カ所、データが確認できていない。

安齋館長が2011年3月11日に電力企業や政府に提起したこと

- 隠すな
- ウソつくな
- 過小評価するな

志賀原発に注目しよう

緊急展示 能登半島地震と志賀原発

2024年1月1日、能登半島で数千年に一度と言いう巨大地震が起きました。連動して動いた断層群のすぐそばに志賀原発があり、しかも地震の影響があまり報道されませんでした。伝言館はすぐに「能登半島地震と志賀原発」について緊急展示を企画しました。